

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103664
法人名	有限会社 トータルケア果の実
事業所名	グループホーム ころ
所在地	松山市西垣生町575番地6 電話089-971-8705
自己評価作成日	平成23年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節毎の行事や外出の機会を作っている。
医療連携、訪問リハビリ、訪問マッサージ等を活用して入居者の健康維持に努めている。
家庭菜園やニワトリを飼うなど自然に親しむ場面作り。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気づくりがされており、床暖房等で室内が適温に保たれ居心地よく過ごすことができるよう工夫がされている。管理者や職員は理念を共有し、利用者の日々の暮らしを支えている。訪問看護ステーションと24時間体制で連携ができており、訪問リハビリも活用する等、医療面でも適切な支援が提供されている。地域の行事に参加したり、ホーム主催の夏祭りに地域の方に参加してもらう等交流を深めている。家庭菜園で収穫した新鮮な野菜や、釣ってきた魚等を食材にするなど食事が利用者の楽しみの一つとなるよう工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームころ

(ユニット名) あんず

記入者(管理者)

氏名 三好 奈保子

評価完了日 平成 23 年 1 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員の目に付く場所に掲示し、確認や反省の機会を作っている。	
			(外部評価) 開設時に代表者が作成した理念を基に、職員で話し合いを行い地域密着型サービスの意義を踏まえた行動目標を定め管理者や職員は共有している。理念等は事業所の誰でも見える所に掲示し、利用者の日々の暮らしを支えるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 交流できていると思う。 夏まつりを催したり、敬老会への参加。 幼稚園や地区の運動会への参加など	
			(外部評価) ホームは自治会に入り地域の情報を得たり、地域のお祭りや敬老会等にも参加している。ホーム主催の夏祭りには近所の方の参加も得られている。近所を散歩時には地域の方と挨拶を交わしている。また、中学生の体験学習や高校生の実習の受け入れ、ボランティアの訪問もあり、幼稚園児との交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域貢献にまでは至っていないと思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活かしていると思う。 消防避難訓練の報告や専門家の講演から学んだことをサービス向上に活用している。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域の住民、市や地域包括支援センター職員の参加を得て、ホームの活動報告や意見交換が行われている。講演を計画したり、行事等の後に開催する等工夫して行っている。	地域住民の参加が多く得られるような議題を提案したり、夏祭り等に参加してもらった地域の住民に呼びかける等、運営推進会議に気軽に参加してもらえるような工夫が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 協力関係を築くよう努力している。	
			(外部評価) 運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加があり、意見やアドバイスをもらっている。管理者は運営推進会議以外でも質問や相談をしている。	日頃の疑問点や制度について分からない事を市に相談するなど、さらに良好な関係づくりをし、利用者へのサービス向上に繋がるよう取り組みに期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ケアの実践ができていると思う。	
			(外部評価) 身体拘束については、職員は内部研修を行い身体拘束を行わないケアを実践している。玄関は施錠することなく職員の見守りで対応している。外出を希望する利用者には、職員と一緒にいっしょに出かけるなど対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修を受け、見過ごすことがないように注意し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度の利用について職員間で話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に見学していただき十分な説明をしたり、ご意向の確認を行ったりして、納得・理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご自身で伝えられない方からは、職員が表情などから推し量り反映できるよう努めている。 (外部評価) 職員が利用者に直接聞いたり、家族の訪問時や電話でも意見や要望を聞いている。また、運営推進会議への家族の参加も多く、意見も活発に出されている。代表者も参加しているため、必要に応じて運営に反映することができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の申し送りや毎月のミーティングで意見を出し合う。代表者がミーティングに参加するので反映させることができる。 (外部評価) 管理者は、元々現場の職員であるため他の職員とも普段から気軽に話し合うことができ、ミーティングでも活発な意見交換ができています。月1回、代表者と管理者、ユニット長、リーダーで話し合いが行われており、職員の意見も伝えることができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 月1回の代表者との会議で意見を出し合い又、ミーティング時の提案や意見等を取り入れ交付金や助成金を活用して整備している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修（6回/年）を実施し、又、外部での研修を受けるよう勧めたり、スキルアップを気にかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者が積極的にとまではいかないが、自主的にグループホーム連絡協議会の研修に参加し情報交換や交流の機会を持っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にご本人にお目にかかり心身・生活面をアセスメントする。 思いや不安について傾聴する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの経緯を伺い、ご家族の思いを考え話を聴く。どんな対応ができるのか今後のことを話し合う。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何が必要なのかを見極め、できる限りの対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんの思いを理解し、共感できるよう努める。仲良く、なごやかに生活できるような場面作りをする。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者さんの様子（健康状態・日常生活）をお知らせする手紙を月に1回送っている。 家族さんがホームに来られ、一緒におやつ作りをされる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自宅訪問、手紙や電話 (外部評価) 今まで利用していた美容院やお墓参り等の個別の支援を行っている。また友人がホームに訪ねて来る事もあり、利用者は楽しくお話している。入所が長くなることにより、馴染みの人や場所との関係が薄れてしまわないよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食堂での座席の配置に配慮する。 職員も加わり、お茶や食事時に会話をします。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族さんの要望で、入居時の情報提供をした。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関りの中で思いを把握できるよう努めている。 (会話・行動・表情などから思いをくみとる) (外部評価) 日頃の生活の中で利用者から直接聞いたり、面会時に家族から聞くなど、担当の職員を中心に把握するように努めている。把握した内容は個人の記録に残しているが、職員間で口頭で伝える事が多いので、全員が共有して支援する方法を今後の課題として検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族から生活歴を伺い、ホームでも安心して自分らしく生活できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各人の生活リズムを把握し、気づきや発見があれば記録し、全職員が共有できる様努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族に意向を伺い、作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望、職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。毎月のミーティングでモニタリングを行い、3か月から6か月で見直しを行っている。利用者の状態に変化があればその都度話し合いを行い新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に記入し（1日の様子・排泄・身体状況）共有を図り、実践や見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活リズムを把握し、気づきや発見があれば記録に残し、全職員が共有できるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 理・美容室に送迎をしていただき、サービスを利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居前にご本人、ご家族に主治医の確認をし、ご理解 いただいた方には協力医と連携をとっている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望している医療機関やかかりつけ医への受 診ができるよう職員が付き添ったり、往診してもら うなど支援がされている。訪問看護ステーションと24 時間体制で連携している。訪問リハビリも受けるこ とができ、医療面において安心できている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 医療連携で看護師の訪問を受け、24時間対応で相 談・助言を受けられたり、健康管理をしていただい ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご家族と相談しながら情報提供をしている。 又、面会に行って情報を得て、退院後の支援に活か している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 状況変化に応じて主治医・ご家族とくり返し話し合 い、申し送りや記録にて全職員で方針を共有してい る。</p> <p>(外部評価) 家族が希望すれば看取りが可能であることを、入所時 に利用者や家族に説明している。今までに看取りの経 験もあり、状況に応じてかかりつけ医や関係者、家族 と話し合いを行い、よりよい看取りができるよう努め ている。</p>	<p>ホームとしての詳細な看取りの指針を定めると共に、 さらに具体的な説明を利用者や家族行うことが望まれ る。重度化や終末期におけるケアについての職員教育 について、今後も継続して行うことを望みたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修を受けたり個人で勉強はしているが、全員が訓練を定期的には受けておらず実践力は不十分である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の訓練を行っているが、ホームの場所の関係で地域との協力体制は築けていない。 (外部評価) 年2回定期的に避難訓練を行っている。1回は消防署の協力を得て夜間想定して行い、もう1回は警備会社の協力により行っている。スプリンクラーや警報装置の設置もできている。地域との協力体制はまだ確立されていないが、これから働きかける予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日常生活の中で気をつけている。 (外部評価) 利用者のプライバシー等については、内部研修を行い知識や技術を高めると共に、接し方や声かけの仕方など職員間でも注意し合っている。職員のトイレや歯磨きの誘導の声かけは、ごく自然な感じで行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴・食事・飲み物・買物等の場面で自己決定の機会を作り支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ入居者さんのペースに合わせて希望にそえる様努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服は、ご本人に決めていただき美容室はなじみのお店にする等、個々の希望にあわせて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と一緒に洗たく物たたみ・片づけ・買物など行っている。 食事の時は音楽をかけるなど雰囲気作りをしている。 (外部評価) 家庭菜園で収穫した野菜や、代表者が釣ってきた魚等も使って調理している。職員は利用者のできることを把握しており、声かけなどしながら下ごしらえや準備を一緒に行っている。利用者に合わせて刻みやとろみ食など工夫している。職員は利用者の間に座り、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取の状況をこまめにチェックし、気をつけている。食べられない物は品をかえるなどの対応をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科診療 歯ブラシを個人に合わせて選ぶ 義歯の定期的なポリドント洗浄	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用して、リズムやパターンを理解し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄の自立している人もいるが、オムツ使用の人も昼間はなるべくトイレ誘導を心がけている。夜間は利用者の睡眠を妨げないよう、状況に応じておむつ交換を利用者ごとのペースで行うように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分摂取を心がけている。 薬の服用もご本人と相談しながら取り入れ、予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人の希望にそい、入浴剤で気分転換を図るなど楽しめるよう工夫している。 言葉かけや対応に注意し、安全・安心に入浴できるよう心がけている。	
			(外部評価) 最低週2回は入浴できるよう、利用者の希望に沿って入浴支援をしている。入浴の苦手な利用者は、職員が交替で声かけするなど、気持ちよく入浴してもらえるよう工夫をしている。状況により足浴や清拭で対応をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の生活リズムを整えて安眠に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一覧表を作成し、いつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方の体力などに合った役割を分担していただき、声かけによって役割を実感できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気や体調の良い日はできるだけ近所の散歩を心がけている。 外出・外泊も家族と相談し、実現できるよう支援している。	
			(外部評価) 天気の良い日には近所を散歩したり、家庭菜園の野菜を収穫したり、代表者と釣りに出かけるなど、日頃から外気に触れるよう支援している。また買い物やドライブにも出かけるなど個別に支援している。ホーム全体での行事も計画し利用者の楽しみを作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ホームの方針で現金を持たれている方はおられないが、外出時好みの物を買われるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族への電話の希望に対応し、自室で話していただく等の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節を感じられる作品を入居者さんと一緒に飾りつけをする。 換気・湿度に気をつけ快適に過ごしていただけるようにしている。	
			(外部評価) 季節感のある飾り付けや、家庭的な雰囲気づくりがされている。床暖房や畳のスペースも備えられ、快適に過ごせるようになっている。昼食後に新聞を読んだり、のんびり寛ぐなど、思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りで過ごせるスペースを作ったり、ウッドデッキでは日光浴が楽しめる。 たたみスペースを作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使っていた家具の持ち込み 観葉植物 たたみ	
			(外部評価) ベッドは備え付けであるが、家庭で使っていたタンス等の家具や写真、絵、愛用していた物や好みの物を持ち込み、自宅で過ごしていたように飾り付けや配置を工夫して、居心地よく落ち着いて過ごせるような部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) わかりやすい表示（文字以外）を心がけている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103664
法人名	有限会社 トータルケア果の実
事業所名	グループホーム ころ
所在地	松山市西垣生町575番地6 電話089-971-8705
自己評価作成日	平成23年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節毎の行事や外出の機会を作っている。
医療連携、訪問リハビリ、訪問マッサージ等を活用して入居者の健康維持に努めている。
家庭菜園やニワトリを飼うなど自然に親しむ場面作り。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気づくりがされており、床暖房等で室内が適温に保たれ居心地よく過ごすことができるよう工夫がされている。管理者や職員は理念を共有し、利用者の日々の暮らしを支えている。訪問看護ステーションと24時間体制で連携ができており、訪問リハビリも活用する等、医療面でも適切な支援が提供されている。地域の行事に参加したり、ホーム主催の夏祭りに地域の方に参加してもらう等交流を深めている。家庭菜園で収穫した新鮮な野菜や、釣ってきた魚等を食材にするなど食事が利用者の楽しみの一つとなるよう工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームころ

(ユニット名) かりん

記入者(管理者)
氏名 三好 奈保子

評価完了日 平成 23 年 1 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を作り、職員の目につく場所に提示しミーティング時等確認したり、各自でも確認している。	
			(外部評価) 開設時に代表者が作成した理念を基に、職員で話し合いを行い地域密着型サービスの意義を踏まえた行動目標を定め管理者や職員は共有している。理念等は事業所の誰でも見える所に掲示し、利用者の日々の暮らしを支えるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所としての行事を催し地域の方々に案内をしたり、地域の幼稚園・小中学校行事で交流している。生徒の職場体験の受入等。 ただ、地区の行事への積極的な参加は不十分である。	
			(外部評価) ホームは自治会に入り地域の情報を得たり、地域のお祭りや敬老会等にも参加している。ホーム主催の夏祭りには近所の方の参加も得られている。近所を散歩時には地域の方と挨拶を交わしている。また、中学生の体験学習や高校生の実習の受け入れ、ボランティアの訪問もあり、幼稚園児との交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議でも意見は出ているが、実現には致っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議出席者（市・地域・家族）の意見から研修に参加したり、より理解を深めて日々のサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域の住民、市や地域包括支援センター職員の参加を得て、ホームの活動報告や意見交換が行われている。講演を計画したり、行事等の後に開催する等工夫して行っている。	地域住民の参加が多く得られるような議題を提案したり、夏祭り等に参加してもらった地域の住民に呼びかける等、運営推進会議に気軽に参加してもらえるような工夫が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議ではなるべく積極的にアドバイスをお願いしているが、それ以外ではまだ積極的に伝えるところまではできていないので今後は協力関係を築いていきたいと思っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加があり、意見やアドバイスをもらっている。管理者は運営推進会議以外でも質問や相談をしている。	日頃の疑問点や制度について分からない事を市に相談するなど、さらに良好な関係づくりをし、利用者へのサービス向上に繋がるよう取り組みに期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠はなく拘束をしないケアに取り組んでいるが、職員全体が基準の把握はできていない。大まかには理解できていると思う。	
			(外部評価) 身体拘束については、職員は内部研修を行い身体拘束を行わないケアを実践している。玄関は施錠することなく職員の見守りで対応している。外出を希望する利用者には、職員と一緒にいっしょに出かけるなど対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修を行って理解をしている。 日常生活の中でもすべての職員が注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修で学んだ職員からの伝達研修や、内部研修で学ぶ機会を作っている。 理解して活用することはまだ不十分である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) わかりやすい言葉でいねいな説明を心がけ理解していただけたかの確認を行っている。 重ねてわからない点は聞いていただく様お伝えしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 会議の際には出席者に質問の機会を設け折にふれ、ご意見は？と声をかけるようにしている。 声に対してはその場で又、後日お答えし改善につなげている。 (外部評価) 職員が利用者に直接聞いたり、家族の訪問時や電話でも意見や要望を聞いている。また、運営推進会議への家族の参加も多く、意見も活発に出されている。代表者も参加しているため、必要に応じて運営に反映することができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の申し送り時、月1回のミーティング時に意見を出し合う機会を設けている。 (外部評価) 管理者は、元々現場の職員であるため他の職員とも普段から気軽に話し合うことができ、ミーティングでも活発な意見交換ができています。月1回、代表者と管理者、ユニット長、リーダーで話し合いが行われており、職員の意見も伝えることができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 月1回の代表者との会議で意見を出し合い又、ミーティング時の提案や意見等を取り入れ交付金や助成金を活用して整備している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修（6回/年）を実施し又、外部での研修を受けるよう勧めたりスキルアップを気にかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者が積極的にとまではいかないが自主的にグループホーム連絡協議会の研修に参加し、情報交換や交流の機会を持っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントの機会を複数回持つようにしている。ご本人・ご家族からのお話を傾聴する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 傾聴に努める。 話しやすい雰囲気・環境づくり。できること・できない事を正直にお伝えすることを心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族と話し合い、何が一番良いのかを一緒に考えさせていただくよう気をつけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できることはしていただく機会・場面作りを心がける。思いを共有できることを心がけるを職員間でも話し合っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、入居者さんの様子をお知らせすることでご家族と共通の話題ができ、訪問された時ご本人と共に職員にも話して下さい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族からの情報はご本人に伝えるようにしているが、もっと積極的にできる支援があるかもしれない。今後の課題である。 (外部評価) 今まで利用していた美容院やお墓参り等の個別の支援を行っている。また友人がホームに訪ねて来る事もあり、利用者は楽しくお話している。入所が長くなることにより、馴染みの人や場所との関係が薄れてしまわないよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者さん同士の関係を考えて座席の配置を決めたり、共に楽しめることを考えたり、お誘いしたりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約修了の例の経験がないのでわからないが、相談を受けたり通信を届けたりして関係が途切れないようにしたいと思う。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関りの中で言葉・表情などから思いをくみ取り、職員で共有するよう努めている。 ご本人に快の表情が増えるよう職員間で情報を共有している。 (外部評価) 日頃の生活の中で利用者から直接聞いたり、面会時に家族から聞くなど、担当の職員を中心に把握するように努めている。把握した内容は個人の記録に残しているが、職員間で口頭で伝える事が多いので、全員が共有して支援する方法を今後の課題として検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常会話の中などで得た情報を記録し残したりスタッフ間で共有するようにしている。（ご本人・ご家族から）	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) “気づき”を心がけ、共有するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) いろいろな場面に関する職員から意見を集めご家族の声を聞き、より良いケアができるよう話し合った上で計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望、職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。毎月のミーティングでモニタリングを行い、3か月から6か月で見直しを行っている。利用者の状態に変化があればその都度話し合いを行い新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、実践や計画の見直しに活かせるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) それぞれの職員の気づきがあり、ご本人の生活の質の向上のために新しい工夫をしている途中である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源にどのような物があるかを情報収集の途中である。お一人おひとりの生活を豊かにできるよう活用したい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医受診の際の送迎 地域の医療機関に協力していただいている。又、往診 もしていただいたり、必要に応じて紹介していただい たりしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望している医療機関やかかりつけ医への受 診ができるよう職員が付き添ったり、往診してもら うなど支援がされている。訪問看護ステーションと24 時間体制で連携している。訪問リハビリも受けること ができ、医療面において安心できている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 定期の訪問以外にも24時間相談を受け付けてもらえ るので、変化があった時は電話にて指示をもらって処 置や受診につなげている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 日頃から相談や情報交換を心がけている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご家族・主治医と連携を取っている。 ご家族とは連絡を密にし、変化に対応する。 スタッフ間では記録を通して情報の共有に努め対応す ることとしている。</p> <p>(外部評価) 家族が希望すれば看取りが可能であることを、入所時 に利用者や家族に説明している。今までに看取りの経 験もあり、状況に応じてかかりつけ医や関係者、家族 と話し合いを行い、よりよい看取りができるよう努め ている。</p>	<p>ホームとしての詳細な看取りの指針を定めると共に、 さらに具体的な説明を利用者や家族行うことが望まれ る。重度化や終末期におけるケアについての職員教育 について、今後も継続して行うことを望みたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修を受けたり個人で勉強はしているが全員が訓練を定期的には受けておらず実践力は不十分である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の訓練は行っているが、施設の場所の関係もあり地域との協力体制は不備である。 (外部評価) 年2回定期的に避難訓練を行っている。1回は消防署の協力を得て夜間想定して行い、もう1回は警備会社の協力により行っている。スプリンクラーや警報装置の設置もできている。地域との協力体制はまだ確立されていないが、これから働きかける予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけているが、まだ“全員が十分”とは言えない。 (外部評価) 利用者のプライバシー等については、内部研修を行い知識や技術を高めると共に、接し方や声かけの仕方など職員間でも注意し合っている。職員のトイレや歯磨きの誘導の声かけは、ごく自然な感じで行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるかぎり希望にそって支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服の選択、美容室の利用等、ご本人の好みをお聞きし決定していただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 要介護3～5の方にも楽しんでいただける様おひとりおひとりに合わせた器・スプーン・形態に工夫している。準備等にも参加の場面を作っている。 (外部評価) 家庭菜園で収穫した野菜や、代表者が釣ってきた魚等も使って調理している。職員は利用者のできることを把握しており、声かけなどしながら下ごしらえや準備を一緒に行っている。利用者に合わせて刻みやとろみ食など工夫している。職員は利用者の間に座り、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事形態に工夫したり水分は好みの種類や温度、一度の量に配慮して摂ってもらえるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) お一人おひとりの状態に合わせたケアを心がけ、義歯については週2回のポリデントでの洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンやサインに注意し、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄の自立している人もいるが、オムツ使用の人も昼間はなるべくトイレ誘導を心がけている。夜間は利用者の睡眠を妨げないよう、状況に応じておむつ交換を利用者ごとのペースで行うように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 理解の上で果物を摂る・水分摂取・腹部マッサージ・温湿布等の工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) おひとりおひとりのタイミングに合わせる様又、入浴のスタイルにも各人に合わせて行っている。	
			(外部評価) 最低週2回は入浴できるよう、利用者の希望に沿って入浴支援をしている。入浴の苦手な利用者は、職員が交替で声かけするなど、気持ちよく入浴してもらえるよう工夫をしている。状況により足浴や清拭で対応をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時刻や過ごし方はお一人おひとりの時々の状況に合わせて、無理をせず穏やかに接している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一覧表を作り、用法・量等いつでも確認できるようにしている。変化については観察・記録・共有を心がけ主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味やし好を考え、声かけ・相談しながら決定し参加していただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員間で調整・協力し、支援するよう努めている。又、お墓参り・帰宅等の希望には家族と連絡・調整し実現できるよう支援している。	
			(外部評価) 天気の良い日には近所を散歩したり、家庭菜園の野菜を収穫したり、代表者と釣りに出かけるなど、日頃から外気に触れるよう支援している。また買い物やドライブにも出かけるなど個別に支援している。ホーム全体での行事も計画し利用者の楽しみを作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持されている方はおられないが、外出の際好みの買物を希望に沿ってできるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望以外にスタッフからも声をかけて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、和やかな雰囲気の置物を季節毎に置いたりしている。	
			(外部評価) 季節感のある飾り付けや、家庭的な雰囲気づくりがされている。床暖房や畳のスペースも備えられ、快適に過ごせるようになっている。昼食後に新聞を読んだり、のんびり寛ぐなど、思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 好みの座布団やひざ掛け・椅子を用意したりソファの位置を工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族やご本人のお気に入りの絵や写真・小物等を飾ったり、ラジオやカセットを置かれている。	
			(外部評価) ベッドは備え付けであるが、家庭で使っていたダンス等の家具や写真、絵、愛用していた物や好みの物を持ち込み、自宅で過ごしていたように飾り付けや配置を工夫して、居心地よく落ち着いて過ごせるような部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 心がけているつもりであるが、まだ工夫の余地があると思っている。	